



日進北小だより

平成28年7月1日 7月号 第4号

電話 048 (663) 1842 FAX 048 (663) 9884

<http://nisshinkita-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標 ; ○進んで学ぶ子 ○思いやりのある子 ○健康な子

「いのちの大切さ」を学ぶ

校長 中村 勝光

プールでの水泳の学習が始まりました。「これからプールに入る」ということは、おそらく学校のどこにいてもわかると思います。なぜならば、準備運動の時の「ピッ、ピッ、ピッ、ピッ」というホイッスルの号令の後の児童の「5、6、7、8」という声がとても大きく、学校中に響き渡っているからです。もちろん、通常の体育の場合、1クラスで行いますが、水泳指導の時は一つの学年の4クラスなどで行いますので、その分声が大きくなります。しかし、それ以上にプールを目の前にして「これから入るぞ」というわくわく感や意気込みがその大きな声から感じられます。みんな意欲満々です。

さて、今、1年生は、全員がアサガオを育てています。これは、生活科の一環として、植物を栽培し、その変化や成長に気付き、植物に親しみをもち、大切にできるようにすることをねらいとしています。2年生は、ミニトマト、ナス、ピーマン、シシトウの中から一つを選び、育てています。これも生活科の一環として、野菜の世話をし、それらが生命をもっていることや成長していることに気付き、愛着を持って育てることをねらいとしています。3年生は、全員がハウセンカを育てています。これは、理科の一環として、花の世話をし変化の様子を記録し、植物の芽生え、成長に関心をもつことをねらいとしています。朝、登校し、持ち物を整理すると、まず、植物に水をあげます。そこで「○○ちゃんのは、青い花が咲いた」、「トマト、赤くなってきた」などとしっかり観察をしています。「○○君の土がカラカラ」と言って、友だちの鉢に水をあげるやさしい児童もいます。水をあげないと元気がなくなることも学びます。「いのちの大切さ」を学ぶ学習です。

5・6年生は、「『いのちの支え合い』を学ぶ授業」を行います。これは、さいたま市のすべての小学校5年生から中学校3年生までの児童・生徒が学年ごとに同じ内容を学習します。5年生では、悩みがあることは特別なことではなく、悩みは一人で抱え込まず、相談することが大切であることを学びます。6年生では、悩みを相談された時の支援方法や深刻な悩みは大人に相談することが大切であることを学びます。これも「いのちの大切さ」を学ぶ学習です。

「いのちの大切さ」を学ぶことは、人が生きていくための基本です。自分のいのちも、自分以外の人のいのちも、生あるもののすべてのいのちを大切にしたいです。